

臨時総会 飯田会長退任挨拶

議長にお許しをいただきましたので、皆様に会長退任にあたっての御礼のご挨拶を述べさせていただきたいと存じます。

さて、2年前の臨時総会におきまして、第33代会長を仰せつかった際に、私は、「東日本大震災からの復興」を最優先事項として取り組むこととお約束いたしました。

平成28年には熊本地震が発生したことから、本会の被災地復興に向けた取り組みは、更に拡大することとなりましたが、私は、すべての被災町村が1日も早い復興を成し遂げられるよう、岩手県、宮城県、福島県、熊本県の被災町村を訪問し、この目で復興の現場を見て、首長や議会議長の生の声を聴き、これを国の政策会議、政党懇談会等を通じて、直接、政府・与党にお伝えして参りました。

真の復興への道のりは、まだまだ険しいことと存じますが、絶えず、現場の声を届け続けることが重要でございますので、次期執行部の皆様におかれましても被災地に寄り添って復興の後押しを続けていただきたいと思います。

平成26年に始まった「地方創生」の取り組みもこの2年間で大きく前進いたしました。2年前には「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定段階であったこの取り組みも、現在では、全国の市町村が、それぞれの総合戦略に基づき、創意工夫を活かした事業を展開する段階へと歩を進めております。

5年間の総合戦略も折り返しを迎え、新たな課題が見え隠れする時期に差し掛かっているとは存じますが、「地方創生の成功なくして町村の将来はない。」との気概を持って、地方創生の更なる深化を期待するものであります。

また、議員が安心して議員活動に専念できるよう、地方議会議員の新たな年金制度への加入にも取り組んで参りました。その結果、与党によって、地方議会議員の厚生年金制度への加入のための議論が進み、法案提出まであと一歩のところとなっております。この活動にあたっては、各都道府県会長を通じて意見書の採択をお願いいたしましたところ、実に7割を超える町村議会にご協力をいただきました。これは都道府県議会、市議会を大きく上回る数字であり、町村議会の結束力を痛感いたしました。私の在任中に法案提出とはなりませんでしたが、次期会長におかれましては、引き続き早期の法案成立、円滑な制度の整備に向けご尽力いただきたいと思います。

振り返りますと、30年にわたる議員生活の中で、全国会長の大役を担ったこの2年間は、困難な課題こそ多かったものの非常に充実した期間であり、あっという間に過ぎ去ったという感じがいたします。本日で会長を退任いたしますが、これからも一人の地方議会人として、全国町村議会議長会の発展を見届けて参りたいと存じます。

最後になりましたが、在任中は、一方ならぬお力添えを賜り誠にありがとうございました。皆様方の温かいご支援と多大なるご協力に対し、今一度、感謝を申し上げます、会長退任にあたっての御礼のご挨拶とさせていただきます。

2年間どうもありがとうございました。

平成 29 年 7 月 12 日

全国町村議会議長会会長 飯田 徳昭